

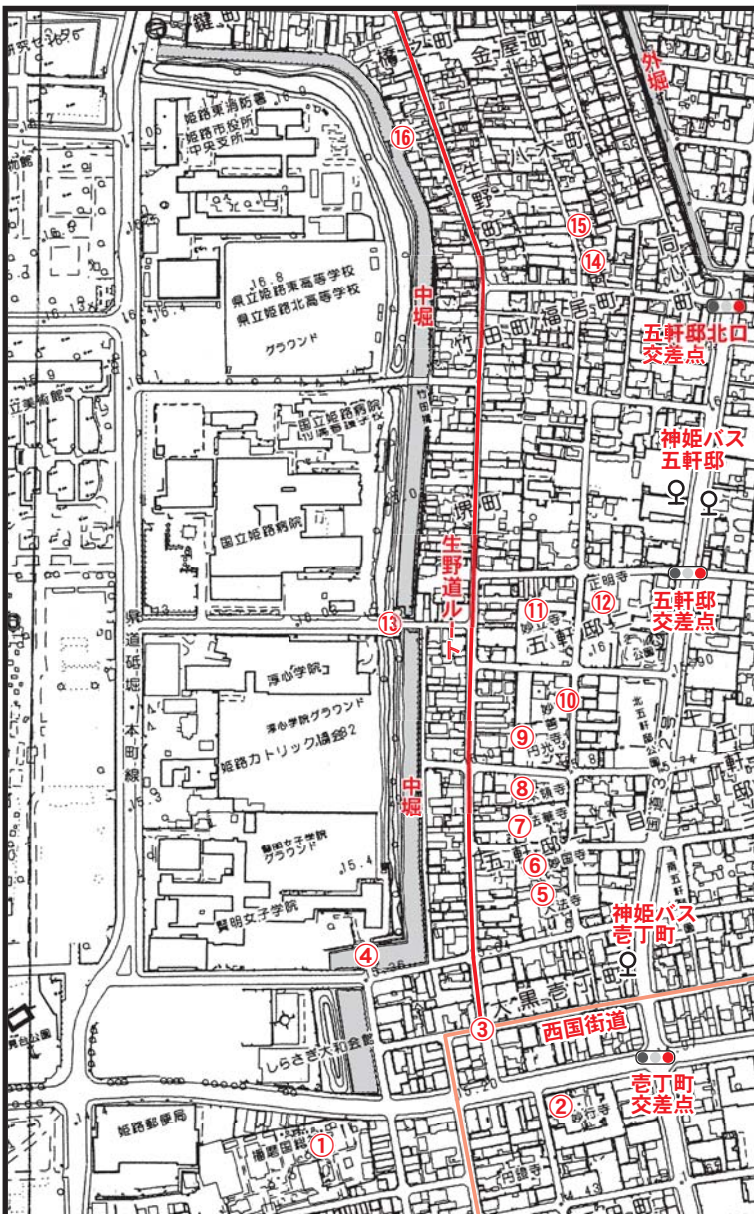


『生野道』をたずねて その1

「生野道」は生野街道、但馬道、但馬街道、但州出石街道ともいわれ、姫路城下から但馬、生野方面に通じる道をさし城下の内町・外町では野里街道ともいわれます。「元禄国絵図(播磨国)」をみると、城下から野里村を経て北上、白国村の東の一里塚を経て有明山山麓沿いに北上、飾東郡下仁豊野村の北の一里塚、郡境を越えて神西郡の上仁豊野村に至ります。上仁豊野村から犬飼村に北上する生野道、市川を渡り鍛冶内村を経て太尾村で北上する生野道と太尾村から東北に進む丹波道が分岐、国絵図は上仁豊野村から太尾村を経て北上する生野道を朱太線で描いています。

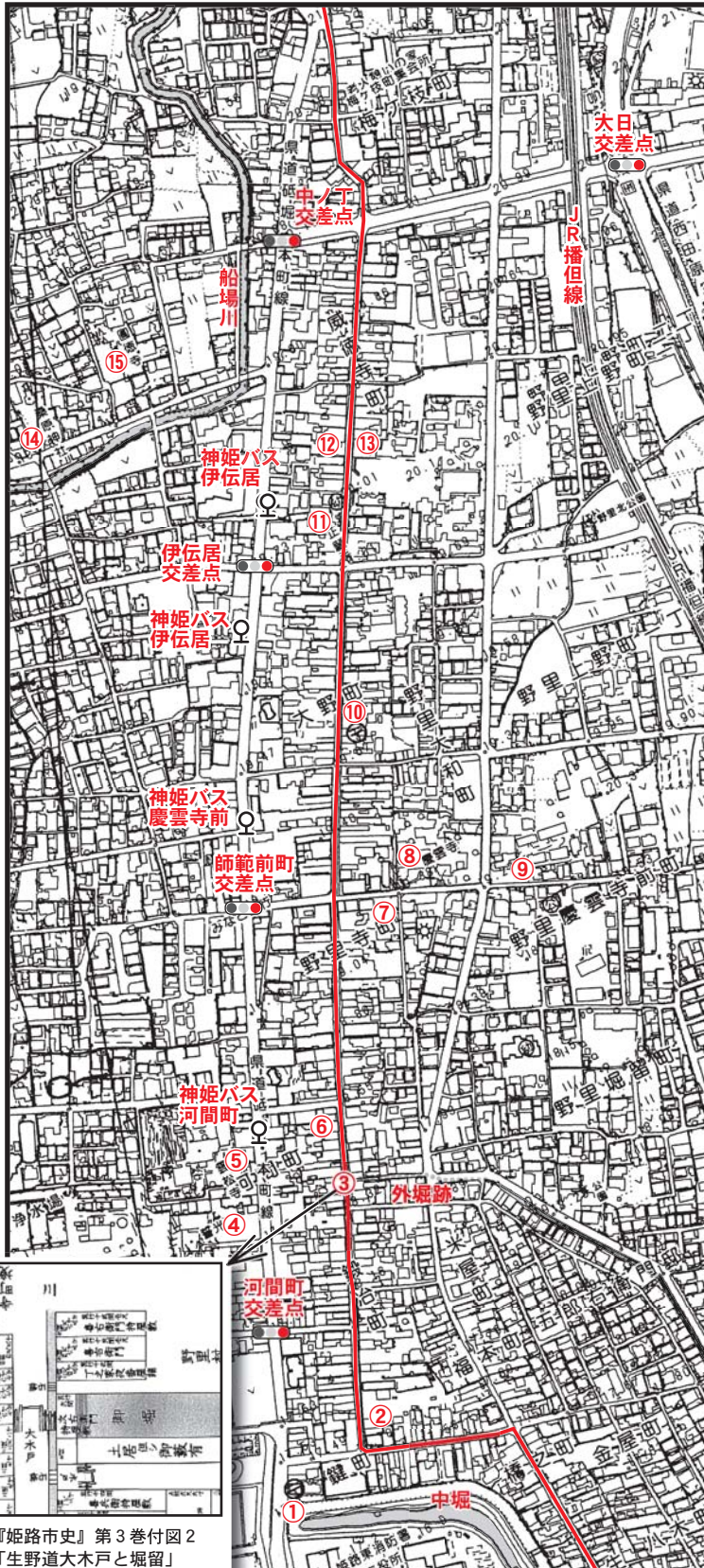
ここでは姫路市域の生野道を城下から北にたどり、ルートは実線(——)で示し、消滅や推定は破線(-----)で示します。沿道の文化財は丸数字(①②・・・)、主な国道・河川・交差点やバス停等を赤字で記します。

＜図1＞



- ① 播磨国総社(射楯神・兵主神並びに播磨国内174神を祀る播磨国総鎮守)
- ② 妙行寺(法華宗真門流、慶長6年(1601)本覚院日正が建立)
- ③ 生野道分岐点(姫路城外曲輪を通過する西国街道はこの地点で生野道分岐)
- ④ 内京口門跡(外門は南向き脇門付高麗門、内門は南向き脇門付櫓門、外門の内に番所を設置)
- ⑤ 大法寺(日蓮宗、永禄年間(1558～70)日就が建立し城下町建設の際に当地移転)
- ⑥ 妙国寺(日蓮宗、天文20年(1551)日受が置塩城下に建立、のち河間町に移転、城下町建設にともない当地に移転)
- ⑦ 法華寺(日蓮宗、文明9年(1477)日登が三木に建立、天正年間に御着に移転、城下町建設にともない当地に移転。移築していた千姫位牌堂は戦災焼失、境内に寛延大洪水溺死者供養塔)
- ⑧ 本領寺(日蓮宗、元和9年(1623)日賢が坂田町に建立、寛永16年(1639)北条門付近に移転、万治3年(1660)当地に移転)
- ⑨ 円光寺(日蓮宗、日普が飾西に建立、城下町建設にともない当地に移転)
- ⑩ 妙善寺(顕本法華宗、城下町建設時に日善が建立)
- ⑪ 妙立寺(顕本法華宗、慶長9年(1604)遠江から招かれた日円が建立)
- ⑫ 正明寺(随願寺17世長吏の道達が康治年中(1142～44)に姫山に建立、後嵯峨法皇御菩提所、国衙称名寺、姫道山称名寺、声明寺、称明寺とも記され戦国時代に正明寺。城下町建設にともない移転、現在地には江戸時代中頃。境内に県指定の貞和2年(1346)「板碑」)
- ⑬ 久長門跡(外門は東向き脇門付高麗門、外門は東向き脇門付高麗門、外門の内に番所設置)
- ⑭ 中佐稲荷大明神
- ⑮ ノコギリ状街路(城下町建設時期のノコギリ状ジグザグ道)
- ⑯ 春吉稲荷神社

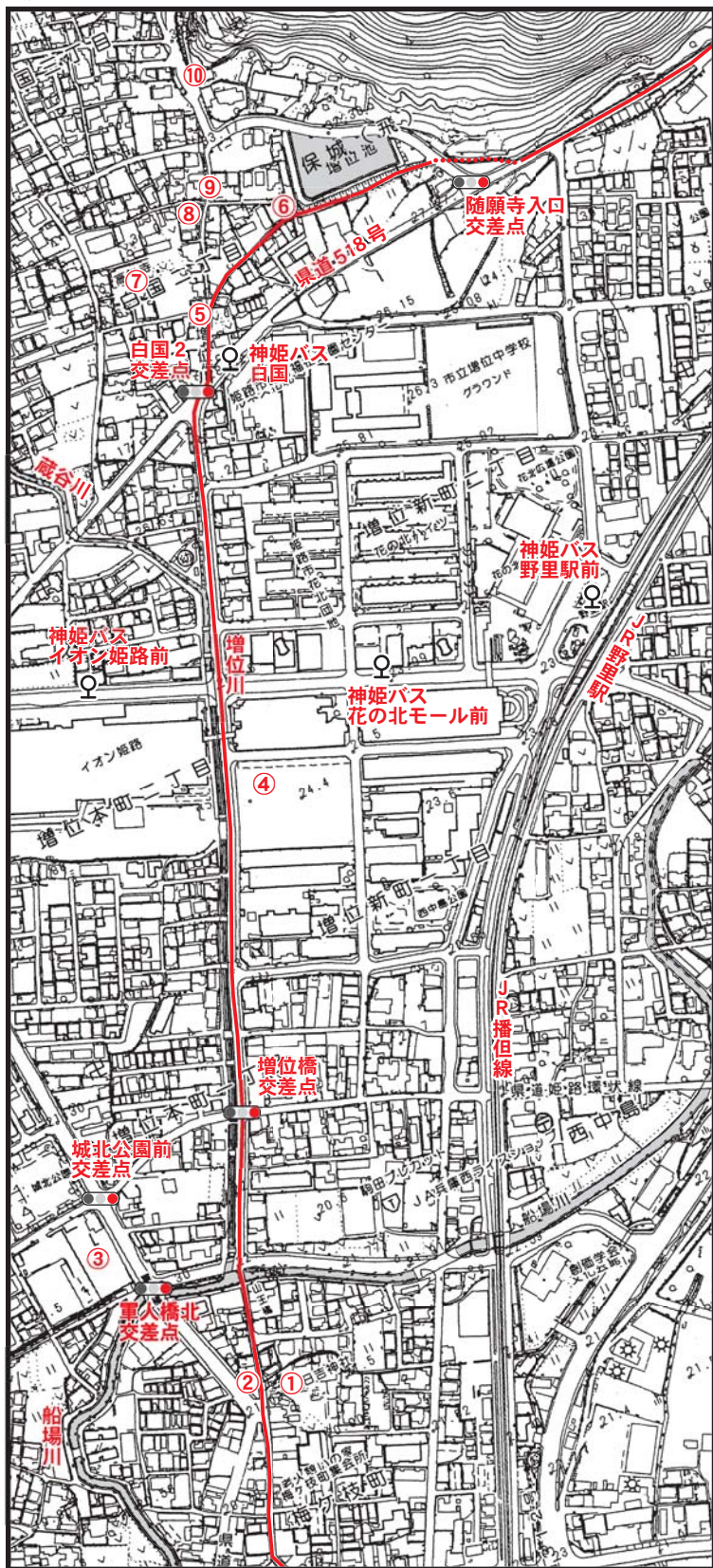
<図2>



- ① 野里門跡(外門は東向き脇門付高麗門、内門は北向き脇門付櫓門、外門の内に番所を設置)
- ② 野里(古代の飾磨郡大野里の遺称地とい中世には国衙大野郷、15世紀後半には野里鍋がみえ鑄物師の拠点、16世紀までに播磨鍋・釜は全国的に著名化、天文13年(1544)には野里村がみえ、永禄11年(1568)芥田氏が御着城主小寺政職から野里村鑄物師惣管職に任じられた。野里村宛の天正6年(1578)羽柴秀吉禁制があるが、池田輝政の城下町建設で野里村のうち町場化した地域(鍵町、河間町、威徳寺町など)は外町となる。
- ③ 外堀堀留と生野道大木戸(姫山東北麓の八頭門付近から左廻り螺旋状に巡らされた姫路城三重の堀は生野道東側で堀留、生野道には大木戸が設置され出入を監視していたという)*大木戸図掲載
- ④ 誓光寺(浄土宗、天正5年(1577)智専の建立、門前の庚申堂は城の鬼門守護という。墓地に室町時代とみられる凝灰岩製石幢、昭和23年坂田町の願入寺が境内移転に際し貞治2年(1363)銘石棺仏(地蔵立像)も移転、平清盛による建礼門院安産祈願66体地蔵の一つという伝承あり)
- ⑤ 雲松寺(天台宗曼陀羅寺の後身、威徳寺が城下町建設の際に当地移転等の説あり。開基安珪、二代周道は臨済宗興国寺派、寛文6年(1666)万福寺の実伝が中興開基となり黄檗宗に転派。密度の高い細部をもつ鐘楼門の山号額(鶴棲山)は木庵筆という。宝暦元年(1751)の本堂は万福寺大雄宝殿の形式にならうも日本化した本堂、境内に承応2年(1653)五輪塔、享保5年(1720)六十六部供養塔、姫路藩家老高須隼人屋敷庭園から移設された文久元年(1861)香雪園碑あり)
- ⑥ 国有有形登録文化財「芥田家住宅主屋(大正期)・土蔵(嘉永3年(1850))・離れ座敷兼土蔵(大正9年)」
- ⑦ 光正寺(江戸時代は慶雲寺塔頭、戦後廃寺となり現慶雲寺観音堂、お夏・清十郎墓があったとい玉垣に幕末期の歌舞伎・浄瑠璃関係者の名を刻む)
- ⑧ 慶雲寺(嘉吉3年(1443)創建とい南堂が中興開基となり臨済宗妙心寺派、池田輝政が寄進した姫路城の残木で本堂再建という、金銅如意輪観音像は徳川家康娘で池田輝政室の督姫が寄進という、昭和26年お夏・清十郎墓と伝える比翼塚を慶雲寺境内に移設)
- ⑨ 野里の固寧倉(文化6年(1809)より姫路藩家老河合寸翁の施策で備考貯蓄用の固寧倉を設置、弘化3年(1846)までに藩内266ヶ所に設置。野里固寧倉の扁額裏面に嘉永6年(1853)銘)
- ⑩ 姫路市都市景観重要建築物等33号「大野家住宅(明治以前)」
- ⑪ 正願寺(真宗大谷派、天正9年(1581)教念の建立、一説に三木城落城後に移住した人々が威徳寺跡に建立ともいう)
- ⑫ 国有有形登録文化財「魚橋家呉服店主屋(明治33年)・離れ座敷(大正5年頃)・内蔵(大正5年)・外蔵(明治40年)」
- ⑬ 国有有形登録文化財「魚橋家呉服店舗兼主屋(大正14年)・南主屋(明治32年)・北土蔵(大正14年頃)・南土蔵(明治32年頃)」
- ⑭ 桑原神社(旧伊伝居村の村社、康和5年(1103)白河法皇の随願寺御幸の際に当社という住吉神社北に便殿造営という、嘉禄元年(1225)増位山僧が当社で祈雨、井出宗興の願いで小寺氏が社殿再興等が伝わる)
- ⑮ 圓徳寺(真宗大谷派、明応5年(1496)知源の建立という)

『姫路市史』第3巻付図2
「生野道大木戸と堀留」

<図3>

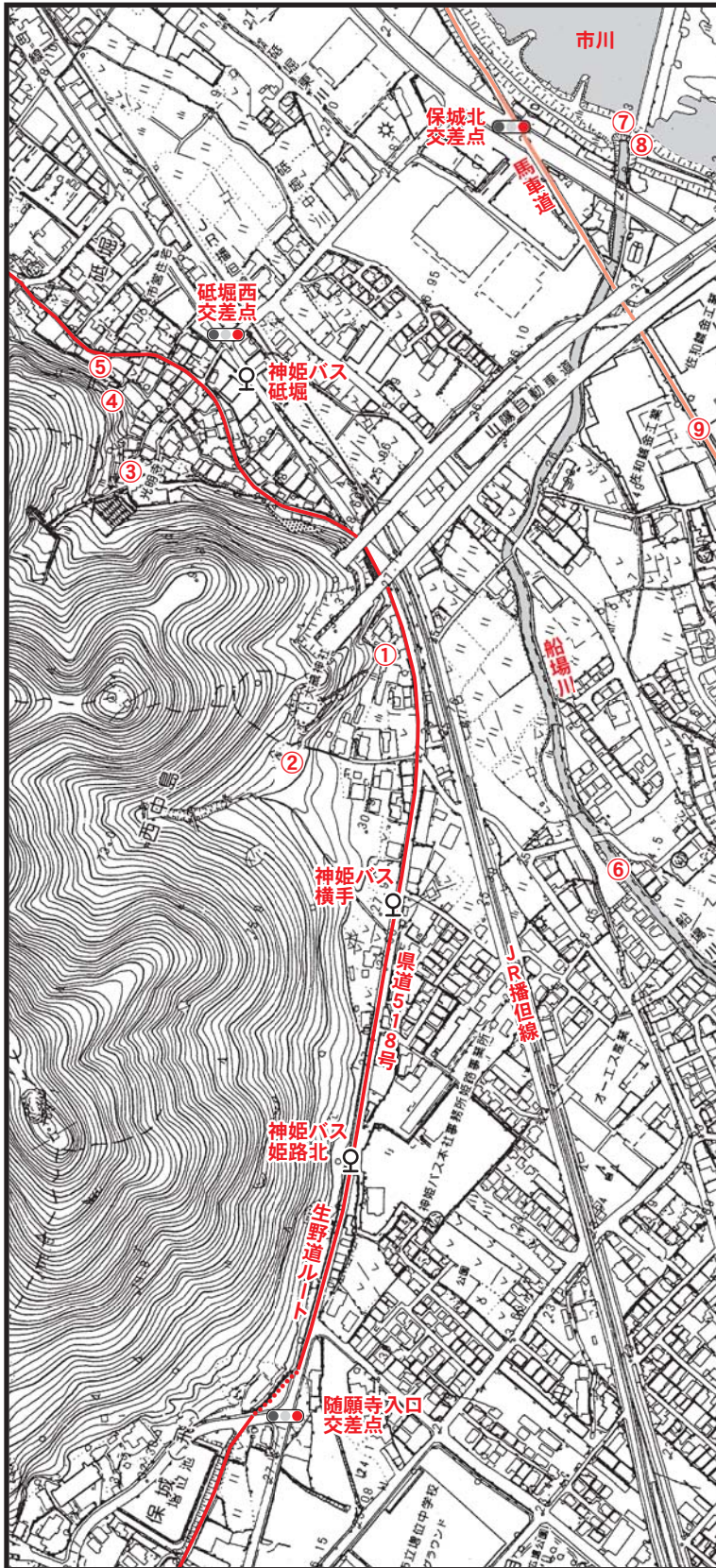


- 1 日吉神社（江戸時代は山王権現、明治元年改称という。随願寺の鎮守として承和元年（834）近江日吉大社より勧請という。別所長治の攻撃で焼失、池田輝政が再興、社領66石寄進、徳川家光から朱印地とされ慶雲寺鎮守となる）
- 2 明珍火箸本舗（甲冑師明珍家は酒井家入封とともに前橋より移る。明治に至り香箸、火箸の製作、戦後は火箸風鈴、花器の製作、さらにチタン素材への取り組み等にも技を継承、当代で明珍家52代目）
- 3 城北練兵場跡（明治31年第十師団姫路設置にともない現姫路競馬場を中心とする現軍人橋西北域に城北練兵場が設置された）
- 4 東洋紡績姫路工場跡（明治15年（1882）創業の東洋紡績は大正8年（1919）から昭和50年（1975）まで現イオン姫路を中心とする区域に姫路工場を経営）
- 5 道標（左増位山道 右たしまみち）
- 6 明治30年道標（右しよしや山 左ほつけ山）
- 7 高松寺（高野山真言宗、寛元年間（1243～47）に白国氏が建立、延宝4年（1676）快山が禪宗から真言宗に転宗）
- 8 佐伯神社（播磨国内神名帳の白国佐伯明神、応神朝に針間別佐伯直の姓を賜った阿良津命とその祖を祀るという）
- 9 巡礼橋（東西の道は巡礼道）
- 10 昭和14年道標（右増位 たいし尊 ふうら堂道）



増位山随願寺境内略図版刷（随願寺提供）
図中⑩から参道を北に進むと東に念仏堂、西に風羅堂跡、山上の本堂（元禄5年（1692）建立）、経蔵（宝暦11年（1761）建立）、鐘樓（享保3年（1718）建立）、榊原忠次墓所唐門（享保16年（1731）建立）や木造毘沙門天立像（10世紀末）は国重文。随願寺は播磨天台六ヶ寺の一つ、聖徳太子堂宇建立、慧便止住、行基諸堂建立と伝える。

<図4>



- ①大年神社(大歳神社、天正年間(1573～92)大塚孫右衛門が所有林に移して崇敬、正徳年間(1711～16)姫路藩主榊原政邦が森林を除地とした)伊能忠敬は文化11年(1814)第八次測量復路において、1月4日城下福中町を出立、「但州出石街道」を測量、「左大歳大明神ノ社あり」と記す。
- ②宮山観音堂
- ③光明寺(浄土真宗本願寺派、天保11年(1840)木仏寺号免許)
- ④小玉神社旧地
- ⑤小玉神社(旧下砥堀村の鎮守に小玉神社、春川神社。砥堀は中世には九条家領蔭山庄の庄域)
- ⑥船場川(池田輝政が姫路城築城の際に船場川を外堀に利用、元和7年(1621)本多忠政が飾磨樋門と船場川筋の普請を行い外堀整備とともに飾磨津に通じる舟運が開けた)
- ⑦大樋(飾磨樋門) 砥堀は市川流域の姫路平野入口にあたり市川河床の標高23m、平地の標高24～5mで比高差が少なく市川が上流から運んだ砂礫の堆積で姫路平野ができた。池田輝政が姫路城下町建設にあたり市川・船場川を整備、本多忠政は元和7年(1621)市川取水口から船場川筋を整備、姫路藩は多額の費用で樋門の維持管理を行ったが、寛延2年(1749)の大雨増水は市川洪水・飾磨樋門(大樋)決壊で浸水被害多大となった。
- ⑧大正5年中安繁治翁功績碑(江戸時代に姫路藩が維持していた大樋は明治以降地元管理、明治35年(1902)大雨洪水で樋門決壊、保城村長中安繁治は多額の費用を投じ煉瓦と花崗岩で閘門三条を起工、現樋門は当時のもの)
- ⑨生野鉱山寮馬車道(明治9年(1876)竣工の生野鉱山寮馬車道は但馬の生野鉱山から飾磨津物揚場まで約49kmの官設馬車道)